

教皇フランシスコ 使徒的勧告 「福音の喜び」 (2013年) より

V 開かれた母の心

46 「出向いて行く」教会とは、門の開かれた教会です。隅に追いやられている人のもとへと出向いて行くことは、やみくもに世界を駆けずり回ることではありません。足を止める、他者に目を注ぎ耳を傾げるために心配事を脇に置く、道端に倒れたままにされた人に寄り添うために急用を断念する、—そのようにしたほうがよい場合がしばしばあります。時にわたしたちは、帰ってきた息子がすぐ入れるようにと門を開けたままにする、放蕩息子の父のようであらねばなりません。

47 教会は、つねに開かれた父の家であるように招かれています。開かれていることの具体的なしるしの一つは、どの教会でも門を開いたままにしておくことです。そうすれば、聖霊に促されて神を求める人が、冷たく閉ざされた門にぶつかることはないでしょう。また、閉じる必要すらない門もあります。だれもが何らかのかたちで教会生活に参加することができるはずで、だれもが共同体の一員となることができます。まして秘跡の門は、いかなる理由があっても閉ざされるべきではありません。これはとくに「門」である洗礼の秘跡についていえます。聖体は秘跡の頂点ですが、完璧な人のための褒美ではなく、弱い者のための良質な薬であり栄養です (51)。こうした確信からも、司牧的な結論が導き出されます。わたしたちは慎重かつ大胆に考えるよう招かれています。わたしたちはしばしば恵みの分配者としてではなく、その管理者として振る舞っています。けれども教会は税関ではありません。教会は父の家です。そこには、人生における困難を抱えた一人ひとりのための場所があるのです。

48 教会全体がこの宣教の力を引き受けるのであれば、教会は例外なくすべての人のもとに行き着かなければなりません。しかし、だれを優先すべきでしょうか。福音書の中に、非常に明確な指針が示されています。友達や近隣の富裕者ではなく、むしろ貧しい人や病人です。彼らは大抵見下され、忘れられていて、「お返しができない」(ルカ14・14) 人々です。このあまりにも明確なメッセージを弱めるような、疑問や弁明の余地はありません。今日も、そしていつ

も、「貧しい人々は優先的に福音の対象です」。見返りを求めることなく福音を彼らに伝えることは、イエスによってもたらされた王国のしるしです。単刀直入にいわなければなりません、わたしたちの信仰と貧しい人々との間には、切っても切れない密接なきずながあるのです。決して彼らを一人ぼっちにはしてはなりません。

49 出向いて行きましょう。すべての人にイエスのいのちを差し出すために出向いて行きましょう。ここで、ブエノスアイレスの教会の司祭と信徒には何度も申し上げたことを、全教会のために繰り返します。わたしは、出て行ったことで事故に遭い、傷を負い、汚れた教会のほうが好きです。閉じこもり、自分の安全地帯にしがみつくと気楽さゆえに病んだ教会よりも好きです。中心であろうと心配ばかりしている教会、強迫観念や手順に縛られ、閉じたまま死んでしまう教会は望みません。わたしたちが憂慮し、良心のとがめを感じるべきは、多くの兄弟姉妹が、イエス・キリストとの友情がもたらす力、光、慰めを得られず、また自分を迎えてくれる信仰共同体もなく、人生の意味や目的を見いだせずに行き続けているという事実に対してです。過ちを恐れるのではなく、偽りの安心を与える構造、冷酷な裁判官であることを強いる規則、そして安心できる習慣に閉じこもったままでいること、それらを恐れ、その恐れに促されて行動したいと思います。外には大勢の餓えた人がいます。そして、イエスは倦むことなく、たえず教えておられるのです。「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい」(マルコ6・37)